

平成 29 年 9 月 1 日発行

みよし文化財だより

文化財保護課(歴史民俗資料館) 電話 049-258-6655

※「みよし文化財だより」は文化財保護課(歴史民俗資料館)が作成する不定期刊行物です

●三芳町で初めての墨書土器が出土しました！

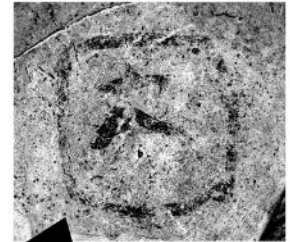
「墨書土器」とは、墨で文字が書かれた土器のことで、主に古代(奈良時代・平安時代)の遺跡から出土するものを指します。古代の遺跡から出土するすべての土器に文字が書かれているわけではなく、何百点と出土する土器の破片のうち 1~2 点ほどで、大変希少な資料といえます。

平成 26 年度に発掘調査した竹間沢地区の本村北遺跡で、この貴重な墨書土器 1 点が出土しました。40 年来続く三芳町における発掘調査の歴史の中で、初めての発見です！

出土した地点は、文化財保護課(歴史民俗資料館)が文化財保管収蔵庫としている民間倉庫の東隣にあたります。発掘調査によって 3 軒の平安時代の竪穴住居跡(当時の人びとが住むために掘った家の跡)が並んだ状態で確認され、そのうちの 1 軒から、多くの土器に混じって墨書土器が出土しました。

出土した墨書土器は、13cm ほどの大きさの「坏」と呼ばれる器で、見込み(内面の底)に「大」(口に大)の文字が墨で書かれています。約 1,100 年前に書かれた文字は、大の文字の一部がかすれて見えにくくなっているものの、比較的鮮明に残っていました。これまで三芳町内の発掘調査では、「大」の文字瓦、「太」・「上福磨」などのへう書き土器(土器の焼成前にとがった工具で書かれた文字)が出土しています。「大」や「太」の類例から、今回出土した墨書土器の文字を「六」や「因」ではなく、「口に大」と判読しました。これらの文字が示す意味については、地名の一部や人名などと推定されます。

8 月より、歴史民俗資料館の常設展示室で、新発見の墨書土器を含めた古代の文字資料を公開しています。是非実物を間近でご覧いただき、約 1,100 年前の人びとが何を伝えるために文字を記したのか想像してみてください。また、墨書土器に関する詳細な情報は『町内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』(平成 29 年刊行)に掲載していますので、こちらも併せてご参照いただければ幸いです。



文字の拡大写真

上から見た図



横から見た図

出土した墨書土器

—お知らせ—

文化財保護課では、遺跡の発掘調査に従事してくださる調査協力員を随時募集しています。ご興味のある方は、下記までご連絡ください。詳しい勤務条件などをお伝えいたします。

○応募条件：60 歳までの男女で、屋外での力仕事に従事できる方

【連絡先】 三芳町教育委員会文化財保護課(歴史民俗資料館)

電話 049-258-6655